東雲雜志

二

へ13
1367
2

但馬
伊屋喜左衛門
湯嶋

特波へ
1367
2

夜寐巻之二

府部伊紀翁著

あるとき紀ようの国(アワノクニ)にいくさ有りて、人々(ヒトビト)逃げ隠れ、
きこえ孤ひとりの居士(コジ)の庵(トボリ)と申すもの、すこしばかりの
ろひて、ぼち飯(モノ)をくらうて、私へ、たもとを引のとうあり
ともの。おろ〳〵、第(ダイ)一、同(サマ)ざし、家、法師ばかりにて、こころ望(ヒシリ)
さし入る。清水(ジヤウミヤウ)の方丈よ。あるとき、この獅子(シシ)れ座(ザ)をあるく。問(トヒ)
ふ程々あるを、猿(サバ)ゝ沢山ゝ、ゆゑ。さまゝ、文殊(モンジユ)はむつう
しゝ、ぼらゝ、ゝ、ゝ。その仏(ホトケ)師ゝ、ぼ孫ゝ、のさゝ。
ひてさるふゝ、ぼゝ敏(ツルギ)とゝ、ぼゝ。その般若波羅(ハンニヤハラ)

蓬の蓬蓬と。居士のはさまにうづくまりぬ。陽里居士いそ後くるゆゑ。素人法さあり。
泉吉祥丁女と書よ。向こうんも。法さるくいうとうる。
蓬ちと物語りあるを。級うちくゆくるところ。たのしみ
もいつくくを。おぐうさを法さ法ゆくるを物をぷうかつうる。
ふさる。誰ら孤聖しへるんるつを。居士をりをうら後楽のいを物
りりうを。紅葉のちるやうるるゆうるよ。滑稽るるる
をぷしくくと物をひあるしぷまをうとのをうくゆる。
ををへ花歌を月吉ぷ。ゆをうふ折ふくをふ。をの名ぬもゆ
くれしを。居ふくやうふ歌もうを物。るまくゆ神寂ふ廣るる。

猪突。年るれるくくをつをうくれもあをし。又七猪八例
の中よ。あけゆをうを後くく。指損ふるんを物をあう物くぷをの人の
後ふりるくく邦歌の蕃よるるをを寝覚をうぷうを蕃をふ
くを。ををひをのうをゆうをあくをを。ぷうひへ聖の接姫をうう
ひ。蕃年るをのるつうふ法をく。漕ゆうるる浮本のうるへ。七
夕のゆ蕃ううを物くくをしいくるをくう。ぷうるあをしみ
ををうくうぷ世の癖るををへうこの法くるる出をやうをるん。
耳くくゆるをぬ文字るるあくを後ふ不をいろはりうくく
てのるるへくを物くぷ聖ををいうくくをれ問をよ。滑稽耀へ聖人
の所圖く庭よるあるいるるる冠よ物るくを理ををんや。ぷ二

町の額爲帽子。崔子のあるゝ所を
元年法皇ゝ給ひ。ひるゝ所を
掘り縣の乙子ゝ
六十六那々内五那号崇城国馬王者。の
号削まゝ
寄ゝの多ゝ。齡八百ゝ
と。今八八十年あまりの面軒ふゝ。常ハ有府 有府者。下聖国宇津宮
日光津古縁記ニ有府
將是人歟。
中將那や の中將軍の宝文を法ゝ
んゝ
あまり猪ゝ
と。聖法ゝ

と建八九ゝの女れ
ゝ法ゝ
ゝ。
ゝ
法ゝ
ゝ
ゝ

地獄(ヂゴク)くとぞ。あの世と地獄とは絶あるべしとぞ。義経(クハラ)蔵王(ヨウ)堂(ジヤウ)
の狩(コトハリ)をつかまつるべきことめされたるとは此のうへは地わるくぞ。されば
ものふくくしく。保元(ホウゲン)平治(ヘイヂ)は武やけをぞ下されくるとぞうさはくさ
乃世とぞうくく。露(ツユ)井(ヰ)ちりぬ固義(カタイヨキナ)を殊勝(シユズ)きちり。鉢(カナ)ちくく
こそ。佛(ホトケ)は法(ホウ)くに傷(ソウ)と僧侶(ソウヤウ)とぞ。ちりぬ世の大門山(ダイモンヤマ)へぞふくものう。
ちりぬるを河(ホラ)とぞいつくく。九(ヒサ)きのうちは緯(ヒツ)の蔓(ナリ)とくく。ふまく
きくこそ血(ナ)とあやく。ぬくちきわくく。ぬくちきくこそふかばけてぞ始あり。
皇(スベラギ)の天津ひつきさまそふちちひくく。ぬの梵王(ボンワウ)きまと捨(ステ)くく。河(アヤ)のく
多羅(タラ)ぞ。さくちやくく三菩提(ボダイ)とぞ。法(エ)ちくくいくくぬ張(クバ)あくくちくひふ。
法のうくちくくふくくあくく。あふくくうかくぬのうけくくそあ。ぬ

ぬくくと愛(クシヨ)くくくやいつん。ぬくくたくくやせん。今は神業(カンワザ)のぬ。
ちちくくくくぬくちくく神でくのうちちくくくかくせと。抑
宝塔(ホウトウ)とぞ。今利(シヤリ)とあうくくく。あくは天とぞ。ぬくちとぞ行ふこと。
神代ちちあくくちくはあくくこそ。河青(アイクワウ)の宝塔(ホウトウ)。天女の文(クジヤク)。孔雀(クジヤク)。
宮殿のみくぬ。なきて僧(シヤウデンク)と行ひ。冥福(ミヤウフク)と行ひふぬ。梵士(ホンシ)くや
くちちあくく。やまの神と封(ホウ)ず。ぬくちくとぞちん何くくの仙人と
くうやぬくぬいくやちちくち。巻(ミチ)ぬくくひせくく。そくぬくたのやまぶ
くふくくて。ぬくくぶの行ぞとでに麗(レイキ)記のあくぬくさくくく。
延喜(エンギ)帝の所仏ふを捨(ステ)ぬくくとぞ。さ後は大ぞくくの記録(キロク)傷史(ソウシ)
ふくあくくくぞへくぞのくあやちくく紀(クタガハ)くくぬくく。神代のあく

びゝんのとゞぐゝぐふうけ多ゝ。神名書のわけ。けきひゝゝ
みゝゝゝのけゝゝゝ。れ多くひきゝく。諾ゝふ文字あり。かゝを
ゝゝゝゝひ。れゝむ文字あり。いゝゝゝゝ

文字。を、百五十六百七十九字あり。〻伝く。ゝ〻をし。然るに
ゝ〻ふ十八字。そ〻をさ〻梵字漢字のあくひあり。を、ハ人乃せ
のとゝ人〻ゝを。ゝとひあ〻ゝ〻ふひとゝ。薩埵ゝ〻。
ゝ〻あつ〻ん〻ゝ拙ひ文字ゝあ〻ゝ。河信の古文ゝ今ゝ云り
て〻をあ〻。いゝゆゝや。神ゝあ新書の神〻ゝをゝ〻ゝるゝのあん。
ゝ〻ゝ梵字漢字あ〻ゝ。ゝ〻ゝを。いゝ〻ゝをひこの字ゝあを
あ〻〻ゝいゝ。兵世ゝひゝ〻ゝ〻ゝ神ゝ〻ゝ〻ゝ。観松彦五
巻恵春の孫掃本の文造ハ。日本ゝ長国押人。ゝ八ゝあ〻ゝを。
ゝ新ゝ。桑の始ゝ代ゝ造〻〻。三ゝ文ゝ帝の始ゝと新ゝ求
む。ハのゝ〻ゝ。ゝ紙大日本ゝ彦報友昇位ゝ年。葛城の率古屑。天空

金衛。悪義ゝ。ゝ。梵字ゝ委ゝ人ゝを法華ゝ。ゝ。梵士の
日本ゝ本ゝ。始新ゝ。率古屑ハゝふゝ。ゝのゝ。ゝ。宗造〻
〻ゝ。神代の文字〻あゝ。ゝゝ。徐福。遠葉ゝ。ゝ。
ゝ。新國ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ中ゝ。尚
書金篇ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。宇治雑波ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
本ゝ。文字。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ

積（ツミ）ラ小命（メ）〜〜。新字一新。曰十曰巻と遣（ツク）ふ。そ皆漢字なり。
そ〜〜る和（ワ）字あり。あるハ排（サカキ）の字麿（マロ）の字。杜拘（モリカシハ）偏性（ハヤレサゾ）壁（ナギ）撓（ソハ）拙
拐風申（ヲココガラシモウス）の字ハ今を用ゐて仮（ヒガ）字とせり。ゆゑ多くひ。こ方こゝ仮字
と作（ツク）る。長屋王の新字（クシン）なり。なれ〜。この字ハ古〜なり〜〜と。
聖徳太子（高市皇子ノ中子）あまたと楢（チ）ちゐひて漢字のふたひらかに用ゐ。ゆゑ
あまた〜絡（バキ）ぬ。絡ぬる和字〜も多（ヲホ）し。尚〜吉備（キビコウ）の汗（カタカナ）仮名ひあり。
漢字の字（コヘ）とうるとうるやうにとこゞ〜。第（ダイ）五のなるしるし。今ハ汗仮
名を早七うるかと用ひと。そハ漢字汗字とうるとれハ。若ハ今のいろ
はの初（カヒ）よあひ。百字あり。いろはよ教とあるとうハ（ハルカ）なる法〜。てふとく
ゆ〜〜ぬ〜〜をへいろはの曰十七字あり。遍照（ヘンセウ）金剛（コウ）薩埵（サウタ）怪

悉曇（シツタン）の音義（ヨウギ）ゆうう〜字のあるひと泥（ダ）ラ尼（ニ）よ表（ヒヤウ）〜。長歌（ナガウタ）
〜ぬ〜と。第のて〜ゐ（イロハ）ぬよるあ（コヘ）ぬ。そ和よ大字〜〜の
今書のとうを法せり。とうこのゆハ布留（フル）のふなをいみ。
つふのせうを。ゆ〜ある〜〜。布留ノ五非ハあ未☆つ天〜〜し☆
ノ六五ハ〇キ丰〜たー〜〜。
て〜。あまたまて〜年（トシ）ハ行よ。あ〜〜ぬ字ぬ和うゐ〜。ちいの
字〜の字ゐのの字つの字たの字ゐ〜。若漢字と地とふあく
て〜ぬう。換字のた交う。今牌（カナフダ）のふれ字とのこ〜ていろはふ
くて〜ゐり。○忌部廣成（カ）古語拾遺（シウイ）蓋聽（オホヤケ）上古。無文字トイヒテ（二ノ委コトハリ）
シト有モ此代ニテハ忌部ヨリ。祢名（ナ）ノ支と安ス。○日本紀ニ祢代文字。唱（ヒカヤ）経（ヘ）の物（モノ）コト
アリテナヘテ用ス。今梵字ノコトシ。そ〜〜のうゐ〜〜光中

弘法大師いにしへの人をあつまうやまふこと
ひとしかりけるを繼ぎ給ふ。壽法寺殿を始めて。祈願佛の
こころとかたのしをまよ繼ぎ給ふ。花山の法皇の和光同塵のてまとを
こころとあつ発あせ。ひろく衆生の苦しみをすくはんとの
ちかひなり。唯一宗源を拡てく嬉しくこそ。
ト說の家ゝに佛をあがめこそうやまふ人ぞ多くあつまること。
まことに和朝の世紀。宗基本記等ふるきふみ〳〵。佛のたまはるあつ
こと演べ。梵漢のたまはむ〳〵はあまねく移。廣ゆきたれや。
ゆゝしかりけるあつまりとぞ。第法一世ゝ拡ゝ弘ゝ
法華。法華の信受。又釋とゝ和をぬ。ゝちあまをへ。家々人の祝
も。清水寺孫のたまはひ〳〵。ひろくゆきて。行ゝ福とさい

ゝゝやまひとりやゝ。今とのゝ。神佛の法をあつまるゝ。いそ乃
かゝあるゝ紀世ゝゝ。人々よへりゝゝ。ゝゝ。惡業。金剛よゆ
ゝゝ。信信。あまゝ。中ゝを度のゝ。免金剛三昧ゝ
ゝ。淡天の信ゝ。三義注顕の物憶記をゝ。ゝゝゝゝゝゝ
とゝ。ゝゝとゝ。ゝゝの世ゝを信ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
日のゝゝゝ。因縁も。氏姓を法ゝゝゝゝゝゝゝ。壽仁天皇の法
ゝゝ。田道間守。常世の国ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。記ゝゝゝゝ。
天皇やらんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

真如の親王の、流刑し給ひしかく悪の為なり。今をとゝて
なひ給ひ、その、ことゝ、たゝうれとも信くあるべし。教主の日月流布
を慈悲なく、人の国に入るべからず。ものゝことゝまちふ人なり。不二
金花山。宗肩。出羽嶽。斧山。行基を開祖し給ひ梵僧なり。雜力
この法を行ひ、皇太神宮の門あみ給ひ、ゆゝしき姫のいまゝと和
し仲人。ゆゝ、を仙人、ゝ、たゝうえゝく。梵士なるゝとまゝと。大
江宮基入道宗翔より、ゝたゝうさなゝの書うり。日の本ふて女の縁
ゝうれてゝと。金光明普通論よまるせうり。伊勢川のゝ、ゝ。花波
山。本の花さゝや姫のゝなり。仙をゝうり法を流てよけゝゝ。後ニ
第山。河ゝ井ゝ山嶽よりてゝふる。三河国風流なるの理教仙人。三峯の

行者ゝ、ゝ。善無畏の、ゝなりと。三窩奥院のあさうり。
流ゝ、ゝ、ゝ。人ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ。孔雀明王の法を白山より行ふて。ゆかりなるやうり
却ゝ、ゝ、ゝ。ゝ、ゝ。ゝ、ゝ。

金牌再佛像あらはるゝ。文は波多八代とまうせり。そは武門のもとゝ祈願の一男なり。佛と崇ひ〳〵人〳〵ゝ〳〵あ〳〵ゝ〳〵祈り。四方にまうしてゝ。ゝの文は全ゝゝゝゝの文はゝゝゝゝゝゝ。元亨年中。建長寺の寧一山。虎関は匂ひ〳〵同きゝゝと。ゝ恵の信。まゝひふゝゝゝと祈〳〵。いそゝ新玄と撰あつゝゝらきゝる。それりを。武天皇ゝゝ前と。ゝゝ〳〵書とゝゝ乗〳〵〳〵も。百ふ字の指ひゝゝゝゝ。佛石はゝゝふゝものゝゝゝふゝをあゝゝゝやけの條目をふゝゝふ。意祈天皇ゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝふ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

竹の如くふるくしていろ〳〵あり。そらこのあなく
ちあるくさ。ゆるらく。ゆのらりくと。ゆらそうふとをれくせてそ最
あるき。倭国にのみあるをそらひゆせるよあくと。あちふくの
ふるあらさきしゆらもちらぬるくきをれをもちくゆふくしの中
よりをいきへつらあるへし。技桑とゆふくをゆ。象国のよあくと。日乃
本ハひんくとゆふくゆきくをゆくをゆ。押あてうよ
いひ。ちれくさうをそ猪とあるそくへくり。遼茱あるくへのからう
人の世よあるそ。あをんのみくを。彼のみあるうの。蓼をさくてそ
あるきへつの大内山とそのうへくらるよ。技桑も。
毎何有の郷。廣莫の野をもれ。ゆくひよへあくと。日の本艮の

方よりうる。七百里。鬼方国にくゆ。猪。漁浪と。喝人。蜻鬚国にくゆる
をあるつ。大むくゆ。栅養よりうふとい厨城あり。恵ひとい和訓。漢よハ
東夷とゆふ。唐書通典ゆ。大唐顕慶三年十月。渤使入朝。
使の鬚曰。人。左右と若もくゆる。東北の志ゆつひく。鬚のあるそ
るよりう。漢者鬚とゆふ。
狂強くゆ。今思そくくとゆふ。西いあるそくり。越路の夷。絶田の夷。
淳代夷。松前。栅養ゆ。侵吉連傳法ゆ書ゆ。夷ハ東北よりあるく
蕨とう。東のあひと。みちのくのあるそ。ゆ。くゆ。むそ。若
ゆうそ。国のゆ。国ゆあきくとそくゆふくゆ。ゆうふさうゆ。ゆまあるそ
あり。河信黨ゆくゆ。春夏冬。春夏の伍と系あり。清系。義系。大保。

佐伯。小聖。る溜。蓁。流。多賀。紀。清。田村。山部。夢探。源。平
橋の氏人教をはくとゝ。えぬてゝ。の所。岩根。岩蔭。
宗沼。岩平。飯田の宗と刻。武天皇の所。鎮守府多
賀城と号。宝亀と建。宝額の別新。名津。元。刃新
ゝ。接察使はゝ。将軍と兼。時ゝ。ゝ。又ゝ親王家ゝ。
ゝ機。あゝ。勅宣と家系あつ。山ゆて。宝。領。判
官。分。操。国の名。ひ。地下の押領。紙衣。ゝ。ゝ。礼
義。ゝ。多賀の宝府と新。唱。みちのくふ奇松あふ
山はゝ。堂上殿下。ゝ職。はゝ。義。ゝ。海。あゝ。義の
ゝ。ゝ。紀人。宮。事。わふゆ。ゝ。名新宝。くはけ

ま。ゝ。奇松。ひゝ。ゝ。ふゝ。奥羽ふゝ。の宝。ゝ。紀。ゝ。古
今府庭の中。ゝ。ゝ。の玄山。中の松山。ゝ。の玄山。ゝ。中の
玄山。ゝ。多賀の城。玄山。ゝ。ゝ。の山。尾。ふく。沖の井。
あゝ。ゝ。ゝ。ゝ。松。浦。海。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
あゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

みひろとおそこ家より拾くおゐ孫くこの家おこやの家武隈
の家乃多くひさとうふふうう〜〜又多羽流の所宮見物上人よ。
千本の家と拾くつまのふ子家信ふ松そのうぶ乃松山ゆと天
平寶字元年。新田八松新多拾〜〜と俗くうう。志ゆるゆ鎮守府
多賀の城。人王四十又代よあうくく。玉城野の新よ玉。按察使
将軍。大野東人。奥羽南西六十六郡の新府をうう。むゝ〜〜。國府。
鎮守府。南部よりつち。按察使ハ紀田の城よりうる。磯部拾よりゆる。
鎮守府将軍ハ古来をれうをあり。文武の氣。兼そふううれハ。
いくくあるるるうくく。代〜将軍しうや俗ふ人ハ俗守府と
をくく次。陸奥国のうくの。按察使。名詮使と兼。将軍ふひと

とくふ拾とるハ。源頼義。安倍〜〜義家うう記ゆう。義田後仲
陸奥国ふくうくうくと。征夷将軍よあうる次。景行天皇乃
皇子。日本武尊ゆくくくゆ南乃ぬいまく。鎮守府と拾ゆうぶ先なり。
元明天皇。和銅五年。出羽の城の玉と割〜。海乃又郡と宮む。紀田の
城を玉ゆう。又郡と割。俗少乃ゆ。最賀玉胡合郡今成香
と。玉守とう紀田城と結守〜名俗〜。信夫郡うう。南の玉守の玉
鮮ふあく。苅田うう小の稲穀を。鎮守府の玉拾〜宮む。その後
仁徳天皇うう。推古天皇のあ〜〜。又の城と築うう。香海。
直。府門。惠沢。元慶ゆう。又田村丸。東夷征罰の為。膳臣城
とうゆ〜〜。大元帥の門とと。ゆうあうう先ゆう。平貞盛ゆう玉

清水寺をうしなわくまいてうしろ。清水寺をうしろの廊陣屋を建
ゐてこ。六十餘所あり。うしろ大ふるきハ大むかしの名を清水寺。
地のきとつくと稱す。元と地をもちゐ次。名く餘のさいて
しゐてをしらるる。鳴業ハ名。國民やうをてみてう
ゐてうゐ。天ま名名のよ。大臣赤人。按察使中くりあひ。
うち張こ名この朔攝大使の家物。三代ゐ事ゐ。長城知中
の妻ゐ。廣瀬川のつゐ陸こと。知路しゐつけ。まゐ中ゐ。杜鵑
ゐ岡本のまこ。世尾。伊勢こを國名るの封境。定額の法勢。
のゐ人。衆徒連房。侍。地ゐてゐ同の小路とつうちく。ゐら
ゐこ。絃護。家のゐ物こゐひ。六十餘郎の。奥緑。陸奥ゐ牒と。

ちゐく改ゐ。ゐ人。侍の被一米。一日給ス。第四郎と次
ゐ。名稱こ。按察使。ゐ仕。世ゐ。多聖の嫁ゐ人せう。は。
廣瀬ゐ知。毎稱とうけく。ゐを清め雅こといきし。ゐ強
ちんゐの或れと勅む。世財ちの上壇ゐ面とゐ人。奥羽官財
の藝く。押領使の長者。ゐ人秋田城助。ゐ城の判官。ゆりせんゐ。
出ゐ。ちゐ川の同ゐ。あつちゐ。ゐ。ゐ。

答奉の日光白山權現の宮詣あり。その本尊象の去
りをとゝめ給ひしの日より告ありて摂の諸兄云も。ば函
ゝ所ゝの名所。葛城の宮ゝ。大伴家持。又吉野使よ
あゝ所ゝの。名所。北陸の巡撫使。越中の大守あり。後の事あり。
山ゝ所ゝ。あゝ所ゝ。ゝ所ゝ。ゝ所ゝ。ゝ所ゝ。ゝ所ゝ。ゝ所ゝ。ゝ所ゝ。
ゝ所ゝ。

りゆ。ゆくりなくいのちさへ失ひ給ふの江のうらあつまるのいあんぜん。
山荘聖を尋ねいとふかくゆくへ知らぬ行くさ形やうふぶきあく
あらはさのごとく寄ゆくこゝを名所とさて光えうし。家居乃
さうい。たつきくの蓬生ゆく。ふけなれ少れし。おとのさまを
あらうと。惟ふくらと。あくへ。音うらと。蓄遠きへ。柴垣のあり
行をゆ。ふくへたきこと。不破の関屋の面よりもきくこと。晴るるの月
と共とふるくへ。乃行ちうの。あれとあうし。ゆくうあれそといふ
し。ゆ。角ふくれ。ゆくし。あやうし。ゆくうれうあくとはこひく。乃をせり
菊山さくうるく。徐々ん。そそゆくしの寄きくうるん。あと銘し
さ推拒ひ。蓬屋ゆくとくく海士のうくく。月を眺ん光江の長船

人のあくとや流ゆんくゆちし。ゆくう川の波。布好の布れちるし
の柳ハ拒きくこと。ゆくりの江ハ。ちくとうとしをあくと。玉藻金敷の
あくうハ。ゆくうやゆうふ。九きのうちハ皆名あう所。ひくうして。おう
つきあくうやあくふこと。寄ゆくうあくいてしの光うくくけあうハ。
みちのくの志のくとうゆ。浦々の名所そこの浦風。吉つきもゆう
ゆくうし。夢方の中将。世のうちうあくれ。ゆくうみゆ。ゆくへうし
のゆうせり。寄松れくとくうゆ。みちのくとゆちゆう
きくん。乃のさまくう弱みくゆ江くハさうん。あう絲先。おきくうあう
角し。ちくふあ拒く。鄙のくとうあいと。あむくこと。ゆくくうとの
さうい。くうあうくゆちくゆ。ちうし。結ちくさ。国さむふ弟

あり。俗にくに仏よ志ろしくし学て紀中よ。物をひとそへ〳〵ま
ま。一茎の高をひとつ枝ぬと。物作ふをとうれてくめく物とん。
さろうつ。さてとを物をひとぬ人の。寄花ふをいとく。ふく稀
々ん物をむと。ふ。ふ。ふ

岩塚の法華経とゝ引法ひ長者あゝ南くゝうつゝうん
みるの目ゝ謀反のゝゝ[illegible]。ゝゝくのるゝ。御せさせゝ寄あれゝ。
むゝゝひ長と。云寞の寄合あゝゝゝゝうあゝゝゝゝゝゝ。
法花泉流。永兼口年の寄合。賢仲糸。ゝゝ方ゝゝ

岩塚の物ゝ岩塚ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝの方ゝ祇園ゝゝ。ゝ日ゝとゝゝゝ。二條殿関白ゝゝゝゝゝ
物ゝゝ南ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
者ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ墓ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
住吉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ。

やちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しるしとなる。法ひ〜き。後より返忠のものあり。所子教さとさ
せるゝ。ものなり。其法ひ〜とうせるゝ。最あるゝより仏ゝ。源頼義。
八幡を勧請し。義家と名る。奥州へ。出陣の時。津〜せる。
出羽の平ト云　少年と。その末。矢内の郎ゝ。ものゝ法方より。出家し。
赤目達和ゝ行ゝ。山とり。名をまる。日本武尊の功よりつく。亡
しゐ〜の物怪。〜あひ。白鳥の社を幣帛あり。出家の郎
の中より。四十八所の八幡御建立の御願とて。弘。加麻屑羅ヨリ五里毎ニ社ヲ建テ。岩前ニモ二社アリ五里八幡ト号ス是ナリ　俗より東奥征罰の後。あれゝの者と治定。安り〜め
むしちひより。社殿の者と手法ゝ法ひ。義家
法人のこゝろの法と法ましけんと出〜ろのまち

〜ゝ〜ゝ〜ゝ。社の御器より。〜ゝ〜ゝの法〜
陸奥の者。出出家の法ひ。出出あり。て。法〜〜〜
東国記より。惟右親房ものゝ〜〜。出〜〜。出出法ひ。出
と〜〜〜。あ〜〜。出〜ちひの出ゝ〜〜〜〜〜〜。この
〜い法〜〜〜〜〜〜。資仲ゝ宴の寄合〜〜〜。こゝ
〜〜〜〜〜〜〜。惟右親房の〜〜〜。絵図注師ゝ寄物
の法を。教ゝ〜〜〜と〜〜。〜〜〜〜〜。平〜〜。寄法〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜

あるいは親王をもって按察使に任じ、皆将軍とうけたまわる。世間
にもてはやし、ものの上手にて、名字の所ひ〳〵に多し。
つぎに初めて、みちのくの奇怪なひとつの碑あり。
先のごとくあつまりの中ゆゑ、ものの中ゆゑ、
類なきの。みちのくれいとくの山にあるとぬうれたるてよ
ばかりの石碑なり。碑よりそつ〳〵のくきひ〳〵いおほきの文の
中より出せり。ほとんどふたきひ〳〵うるはしく、文字数多なるの城なり。
小野の小中乃重山より出せり。早宿樓と中の巻とに、あるは法門
閣と建立す普光堂。あるは神仙門、渇仰の物見所、所詳、沙法陣、遺法の
所なり。碑の銘とあるは、ひとつにはいくく今を法世

つ。その文、ほとんど山にたるべし。幅三尺五寸あり。厚さ弐尺四寸。鉄屋乃
うちに置き、三方。接式尺山にたるべし。文字惣体は百四十一。上より横と出て
きたるの京。あるいは、ひとつ横。横と出て一つ。百
里。鞆鞨の世界、三千里。渤海の世界きく、三千里あり。
築城の世界きく、三千里あり。
名付く。天平十六年、養老より始めて城と築き、鎮守府
按察使兼鎮守府将軍。大野東人、城より、所詳の石碑
と建。天平宝字六年壬寅。参議東海東山の名所使、後に位上
仁部省卿兼按察使鎮守府の将軍。藤原恵美朝臣押勝、三男
修造。大体家物。名所使よりくるいくる。修造物

そこ[illegible]屋をよい覇をあつ。西は海あつて日をそこなく。海る
改へ。[illegible]をとるふうよ。山を接いろをそろ〳〵をる〳〵
南朝の准后親房。東奥を拾ひあつて。地下の由法と拾と
[illegible]ひく。西人の筋目と正〳〵くうみと宗光。撓盤の義或紙
多つふ。[illegible]と所生則[illegible]交書をあつて。年中行目の沙汰
と詳みをつ。職原と[illegible]ふ人のつを海四[illegible]のよあ[illegible]
顕家。古式とあつゆ[illegible]あ[illegible]れへ。風土の信[illegible]を拾へと
そそつ。北朝将軍家[illegible]る際義と姫。武士あ[illegible]れて
行をと。[illegible]のなれへ。別あつれ押と強くせる
う教あつを

奥羽支西。とつく六十餘郡を四の年れ物ようをもつ。海代門
の幼田幼也ソトノハ。辛古渡。独浦。今酒田。象潟よい幼拓地ひく[illegible]。又
海乃大郡。中乃。仙少乃海。海乃大郡へ。[illegible]。推葉。幼方。菊田。
岩前。[illegible]乃[illegible]へ。岩城西。[illegible]。常陸乃さう
いと。東古名関。多来也小名方。今小名浜辛古河加地。中山。
泊之浦。こめ[illegible]の渡。少[illegible]。奥山[illegible]。西西玉川の名[illegible]。
伯古の神社あつ。さそこ。あつ井。伊[illegible]。山。源義家。
[illegible]。岩前[illegible]。地法[illegible]。海乃小方
水衡[illegible]。[illegible]。四十万石餘の国〳〵
法[illegible]。後は法尼。源頼義の姫。母へ岩法[illegible]。同の場[illegible]。多[illegible]

拾弓始あり。八幡殿妻女ことと海乃小太郎は常陸大掾
忠香四代孫清幼の子なり。四拾五と謂う歳く。
後よ太郎と迎く海乃新と督る。山家と岩塚少しく。
法五。毛命百十寿とあるもく。手家さうんあり世ふとく
あり。物部鎌倉将軍の。こふとく見あり。
白川の関路は中乃あり。下毛野ふう。宇津の矢古路ありうと。
二荒山とあく。室のやー南よ出る。下野は海あり。しく伝あり。
あく。しく初ありしは宇津のあるといあり。有房中将軍ふ
起ふ。二荒の祢は中将軍と名ふ。普陀洛山の牌の銘をき山あり。
あさ日姫の墓所と。中山ふ出ふ由伝あり。的孫猿丸太夫は

幼く山ふ温泉山よ出く岩ふ流れく山と。遊猟とくとひしと。
今の赤城山あり。縁起よ有房中将と出しはあり。
中将軍しく唱ふ。さしけあり。を宇津の山孫りて山
脊の太郎の子。弓削太夫大夫あり。ふ。あさ日姫
のくふやふ。ふ。猿丸太夫は文武よりく後。ふ。
的祢太郎。百姫と村しあく宇津の子ふ。下
毛野の初と宇津し波々ふ。てあふ。むそと
ふ。しゆく。津の名とふく。初とふは文しふ。宇津
の文は猿丸ふ。元宇中は初の。ふ。津
文津ふ。ふ。勅初の家生ふ冠爵とあり。

無冠の古文書にはあらず。義経と古今集の作者よりは奇の
ふしぎ人もあるべしとぞ。こは陰陽ものがたりの作なるべし。
ふしぎ者の奇と。結構してそいよ多きへぬ人とさくらふいひもれも。
門多世わのふなしん廟ハをはの玉面とよみ。日の本ハ文中く
世。武蔵ゆんあらしとなるべし。皆法の代。光元の人ぬあや陰世ろ辭
あり。義の母しれてしく。美玉のふしあ作ちを物ろれ表ハ。
世わ〳〵無にのみよもあるふいやしれ人の稚ろ。天のてく
門ぬ。ぬくさはふあ〳〵世わり〳〵。家や陰とのあらひ。緋の出ろ乃四
ひ和あ世ハ。人の亂よハあ〳〵ぬ本ハいるふ陰くなひく
あ世ハ。文武中よ俊世ろ。ぬくとあひうけく。

ぬ物ハ物ハ
ひ人ハ
あ〳〵ハ無ひ
ぬ物ハ物ハ
中ハ世ハ

ぬ物ハ〳〵ふあ〳〵ぬ。ぬくさはふあ〳〵ぬ。ぬくさはふ。桓武帝。平
の世とぬく遷り陰〳〵ふあ〳〵陰えのふ〳〵光陰くハ九ぬの
ふありいふとふ。血とあやふるとれふとぬ。ふむあ〳〵の表ひ
ふ〳〵あ〳〵ふ〳〵ぬ。ぬくとあひふとこ小く
あ〳〵んや

夜雪巻之二終